

理学療法士の堀○信○のひとり言を聞いて下さい。

学生時代に痛めた膝を 20 年間使ってきましたが、調子が悪くなり、靭帯再建と半月板縫合の手術を受けました。

術後当日の夜はさすがに痛く、体を自由に動かせない事の辛さ、一晩中脚の置き所がなく、おまけに熱も 39 度以上出て、眠れませんでした。何度も様子を見に来てくれる看護師さんは心の支えになってくれました。(白衣の天使に見えました。)

翌日痛みが辛いものの、体を起こして良い許可をもらい、ベッドの上に座りました。背中をベッドから離せる事が幸せに感じました。そして病室にリハビリに来てくれました。私も普段の業務で患者様に「もうやんの？」と良く言われていましたが、本当にそんな気持ちでした。傷以外の痛い所を触ってもらったり、車いすに移れた事で楽になり、患者様の「先生ありがとう」という気持ちが良く分かりました。家族に思わず「今日リハビリで立てたよ」とメールを送りました。

2 日目になるとかなり楽になり、自主トレーニングやアイシングなど自己管理ができることで気持ちも前向きになりました。

リハビリでは、困っている事を一緒に考えてくれる事が嬉しく、改めてリハビリに対する期待や大切さが分かりました。

現在は職場に復帰していますが、入院前には分からなかった患者様に接する態度、姿勢を自らの患者経験から考えて、これからも業務に励みたいと感じています。良い経験が出来た入院生活でした。



内視鏡を入れた傷跡です。
膝はまだ腫れています。



ゴツツイ装具のお世話になっています。